

国立病院機構リーダー育成研修に参加して

国立病院機構千葉医療センター
整形外科医長
大河 昭彦

2017年9月国立病院機構本部主催のリーダー育成共同宿泊研修に参加する機会を得ました。非常に有意義な研修でしたので、その体験を綴ります。研修は「国立病院機構に勤務する中堅クラスの職員を対象に、国立病院機構に求められる医療を推進するにあたって必要な知識・スキルを習得することを目的とし、また他職種との連携を図ることを目的とする」とうたわれたもので、研修対象者は各病院の将来の中心的スタッフとして期待される、医師（診療部長、医長等）、看護師（看護師長等）、事務職（課長、室長、班長等）及び薬剤師（副薬剤科長、主任等）と多職種の参加者からなります。研修者は全国の機構病院から派遣された45名でした。木曜日の午前11時に品川駅に集合し大型バスに分乗して研修施設へ移動し2泊3日の宿泊研修を行いました。研修施設は神奈川県葉山にあるロフォス湘南という施設で三浦半島ほぼ中央にある山の中の研修センターでした。山と緑に囲まれたすがすがしい施設ですが、周りに店舗が全くなく最も近いコンビニエンスストアまで山道徒歩15分でした。研修に没頭できる環境でした。

研修内容は、リーダーシップ研修、医療安全研修、コーチング研修、ケーススタディ研修の4部に分かれていました。また2晩の夕食も他職種の方とのコミュニケーション・連携を深めるためのディスカッ

ションに主眼を置いた形態になっていました。各研修はただ講義を受けるのではなく自らの意見を発言しディスカッションを行うことに重きが置かれ、5名ずつの9グループに分かれてそのグループ内で研修テーマについてディスカッションを多く行いました。

リーダーシップ研修は経営学の大学教授の方が講師で、ある企業で成功したプロジェクトの遂行過程を通してチームにおけるリーダーシップについて深く考え、自らのリーダーシップ持論を形成する導きを受けました。

医療安全研修ではチーム STEPPS (Team Strategies & Tools to Enhance Performance and Patient Safety) というチームトレーニング概念を学びました。医療チームが稼働するために必要な実践能力は「リーダーシップ」「状況モニター」「相互支援」「コミュニケーション」であり、それらを実践するために使うテクニック・各種スキルを医療現場における実例をとおして体験しました。

コーチング研修では 部下の育成方法、コミュニケーションをとるためのスキルについて研修しました。目標設定とフィードバックが重要であることを知りました。

ケーススタディ研修では、各グループにひとつの機構病院を対象として約70ページにわたる病院の基本データ・経営データを評価解析し、経営改善策を提言するためのディスカッションを行い、グループ研究発表を行いました。病院経営について考える機会を得ました。

2泊3日と拘束時間の長い研修会でしたが、過去に具体的指導を受けたことのない内容が豊富であり、自身の人材形成に非常に役立つ研修会でした。研修会を企画してくださった機構本部の方々、タスクフォースの方々、講師の方々に感謝しております。本誌読者の方で参加機会があれば有意義にご研修ください。